



特集 核廃絶 その2

今年2023年は、教皇ヨハネ二十三世が回勅『パーチェム・イン・テリスー地上の平和』を発表して、ちょうど60年目に当たります。この回勅は、キューバ危機（1962年）を背景に執筆され、「防衛」に名を借りた際限のない軍備拡大と核兵器開発が、「平和」に辿り着くことのない、完全に誤った道であることを示しました。ところが2022年のロシアのウクライナ侵攻を契機に、現代世界は、キューバ危機以来最大の核戦争の危機と言われる事態に陥っています。私たちは、60年目にして再びキューバ危機の振り出しに戻ってしまったかのようです。

この8月、米国ニューメキシコ州のサンタフェ大司教区と、ワシントン州のシアトル大司教区から、核兵器廃絶平和巡礼団が広島と長崎を訪れました。今日の世界がどれほどの危機にあったとしても、私たちは核兵器廃絶の希望を繋いでいかなければなりません。